

2021年5月NHK中国地方放送番組審議会

5月のNHK中国地方放送番組審議会は、20日（木）、広島拠点放送局（ウェブ開催）において、12人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「2020年度中国地方放送番組の種別ごとの放送時間」について、報告があった。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向、6月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
副委員長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
委員	安彦恵里香	（Social Book Cafeハチドリ舎 店主）
	伊藤 康丈	（一般社団法人イワミノチカラ 代表理事）
	笠原 浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科 教授）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会 教育長）
	福安 佳子	（鳥取大学 非常勤講師）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Archis 代表取締役社長）
	松本 協一	（双湖事業化計画合同会社 代表社員）
	宮崎 智三	（中国新聞社 論説主幹）

（主な発言）

<放送番組一般について>

- 4月16日（金）ラウンドちゅうごく「やっぱり一緒に食べたいね ～コロナ禍のこども食堂～」を見た。こども食堂に集う人々の背景がよく取材されていてよかった。鳥取県の事例として紹介されていたが、高齢者に運営上の役割を担ってもらおうという考え方は、地域活動において大切な姿勢だと気づかされた。京都大学の藤原辰史准教授の説明には説得力があり、新型コロナウイルス感染拡大によってこれまで多くのことを家庭に任せすぎていたという問題点が浮き彫りとなる中、こども食堂に代表される地域の緩やかなつながりは現代社会の要請に応えるものだということがよく分かった。

た。

(NHK側)

藤原准教授は島根県ご出身で中国地方の地域事情にも明るく、今後
も地域にゆかりのある識者への出演依頼を検討したい。

- 4月16日(金)NHK山口放送局 開局80年特別番組「ハチマキTV～その一歩に、エールを。～」(総合 後7:30～8:42 山口県域)を見た。番組冒頭から音楽や映像に躍動感があり、見ていて気分が高揚した。アナウンサー二人の軽妙な進行や、別のスタジオで視聴者からのメッセージを紹介するという新鮮味のある演出もよかった。また、地域のために奮闘する人々の活動や思いがよく伝わり、心を打たれた。ただ、視聴者からのメッセージ紹介がなかったことや、出演者がひじについて話をする場面があったことは残念だった。
- NHK山口放送局 開局80年特別番組「ハチマキTV～その一歩に、エールを。～」を見た。山口県内各地で奮闘する人々を紹介する温かみのある番組で、見ていて勇気づけられた。ただ、多くの出演者がそろいのTシャツを着用する中にスーツ姿の出演者がいたので、統一感が無いように感じられた。開局80年の取り組みを今後どのように展開する予定か伺いたい。

(NHK側)

山口県民を応援して元気づけたいと考え、幅広い地域の人々の活動を取り上げて制作した。若手主体で企画し、親近感を持ってもらえるよう努めた。今後も県内の奮闘する人々取材し、特集番組を制作する予定だ。

- 5月7日(金)ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない ～没後70年 原民喜の言葉～」を見た。お笑い芸人で作家の又吉直樹さんと作家の梯久美子さんによる対談と、俳優の橋本愛さんによる原民喜の作品「鎮魂歌」の朗読という内容で、一緒に作品を読み進めているかのような感覚を抱き、構成と人選の妙を感じた。又吉さんの

作品の捉え方は的確で、コメントにも説得力があった。また、東日本大震災でみずからも被災しながら、同じく被災した友人の思いに耳を傾ける澤正宏さんの生き方を通して、原爆と東京電力福島第一原子力発電所事故の間に、人々の悲しみや嘆きという面から共通項を見出すなど、構成力の高さを感じた。

- ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない ～没後70年 原民喜の言葉～」を見た。出演者が豪華で、特に原爆文学を読み込んでいるという作家の平野啓一郎さんのことばには説得力があった。原爆と東京電力福島第一原子力発電所事故の共通点もよく伝わったが、鎮魂歌に影響を受けたという澤さんの文学研究者としての肩書きが番組で紹介されなかったこともあり、なぜ澤さんを取り上げたのか見ていると釈然としなかった。また、原民喜が自殺に至る経緯を丁寧に説明しないと、他者の嘆きを背負うことがすなわち自殺につながるという誤解を生むのではないかと懸念を抱いた。
- ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない ～没後70年 原民喜の言葉～」を見た。原民喜という作家や鎮魂歌という作品についての知識を有している視聴者に向けた番組だったように感じ、ゲストのコメントも作品のどの一節に対するものなのか分からず、内容があまり理解できなかった。また朗読のシーンでところどころカメラを見つめ演技のように朗読していたため客観的に聞くことができず、演出の手法に違和感を覚えた。
- ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない ～没後70年 原民喜の言葉～」を見た。原民喜の作品「鎮魂歌」が注目を集めていると番組冒頭で紹介されていたが、原民喜についての知識を持っていなかったため、注目されているという点にあまり共感できず、視聴意欲がわかなかった。
- ラウンドちゅうごく「悲しみから逃げない ～没後70年 原民喜の言葉～」を見た。起承転結が明確なよい構成であり、妻の早世という一つの死と原爆による無数の死とを対比して描くという展開方法にも感心した。一方で、ゲストの口調が番組の雰囲気とそぐわないようにも感じられ、ゲストが進行を務める必然性を感じなかった。

(NHK側)

原民喜が亡くなった人々の悲しみや嘆きを引き受けて生きたことを伝える一方で、それらの感情は個人で抱え込まず社会全体で受け止めたほうがよいという考え方も伝えられるように努めた。原民喜について知らない人のために、より丁寧に紹介すべきとの意見は、今後の参考にしたい。原民喜とその作品を身近に感じて番組を見てもらいたいという考えから、ゲストを選んだ。

- 5月7日(金) 14日(金) Yスペ!「山下健二郎 バイクひとり旅～疾走200km 山口の絶景を体感～」を見た。山下健二郎さんの視点で、山口県の道路や自然がよく映し出されていた。山下さんが出演することになったいきさつと、この番組の放送された地域を伺いたい。

(NHK側)

中国地方で放送した38分の番組を再構成し、59分の番組をBS1で全国放送した。さらに、山口県域向けに2回に分けて放送した。バイクが好きで、若者へも影響力を持つ山下さんに出演を依頼した。

- 5月10日(月)「もぎたて！」を見た。一昨年までのような大型連休中の楽しい話題の紹介が無かったことで、かえって日常のありがたさを実感した。緊急事態宣言再発出前後の放送では、新型コロナウイルス関連ニュースのあとに和やかな話題も伝えるなど制作者の配慮を感じる一方、見ていて複雑な気持ちも抱いた。新型コロナウイルスの影響で地域経済は相当の打撃を受けているため、これまで以上に困っている人々取材して声を伝えてほしい。補助金の申請などを伝える際に県のホームページへ誘導することがあるが、インターネットから情報を得ることが難しい視聴者もいるので、放送でも申請方法を丁寧に伝えてほしい。ニュースの見出しと写真を6分割して画面に表示する取り組みが最近始まったようだが、番組を途中から見る視聴者にも分かりやすくしてほしいと思う。

(NHK側)

新型コロナウイルス関連のニュースとそれ以外のニュースについては、適切な比率を考えながら伝えていきたい。インターネットから情報を得ることが難しい視聴者に対して情報提供することもNHKの使命の一つと考えており、意見は今後の参考にしたい。6分割の表示については、視認性を高めるため今年度から新たに始めた。

- 5月14日(金) ラウンドちゅうごく「新型コロナ いま求められるケア」を見た。岡山大学病院のコロナ・アフターケア外来に来院した患者が訴える症状について、その割合を表すグラフを示していたが、あくまでも後遺症を抱える受診者23名の中の割合であることを丁寧に伝えないと、さまざまな後遺症の症状が多くの人に現れると誤認させかねないように感じた。また、PCR検査が陰性でも後遺症のような症状が続く人がいると伝えていたが、その理由が判然としなかったほか、ノンフィクション作家の柳田邦男さんがコメントしていた理由もよく分からなかった。なじみの無い専門用語も使用されており、理解しやすいようぜひ注釈を付してほしい。番組末尾で、新型コロナウイルス収束に向けて社会は歩き始めているとのナレーションがあったが、感染拡大が続く情勢下にそぐわない表現だと感じた。

(NHK側)

柳田さんは尊厳死などをテーマに取材や著作活動を行っており、出演を依頼した。専門的な外来語は適切に訳語を付すなどして、分かりやすい説明を心がけたい。また新型コロナウイルスについては、今後も関連番組を制作していく。

- 5月14日(金) @okayama 「緊急事態宣言で岡山は？」を見た。緊急事態宣言の再発出が決定した当日の時宜を得た放送で、急な番組変更にも関わらず内容も充実したものだった。特に、岡山市立市民病院の今城健二副院長のことばからは切迫感が伝わりよかった。まん延防止等重点措置と緊急事態宣言の違いについての説明が丁寧で、また緊急事態宣言下では具体的にどのような行動をとるべきか一般の視聴者にも分かりやすく伝えていた。

(NHK側)

切迫した状況を岡山県の視聴者の方々に当事者意識を持って捉えてほしいと考え、当日に番組内容を変更して岡山県民の関心に応える番組を放送した。

- 5月14日(金)さんいんスペシャル「とっとり しまね 校歌百景」を見た。誰の心の中にもある校歌について多角的な視点で掘り下げた番組で、島根県と鳥取県のすべての小学校の校歌を分析しており、取材制作力の高さに感心した。また、両県の校歌に共通して大山という単語が歌詞に多く含まれていたことから、松江局と鳥取局が合同で制作する意義も感じられた。一方で、ゲストのタレントは、校歌というテーマと何か関係があつての出演なのか、疑問に思った。また、アナウンサーとリモート出演のゲストの発言が重なってしまうなど生放送が裏目に出た点もあつたように感じた。
- さんいんスペシャル「とっとり しまね 校歌百景」を見た。途中から見る視聴者のためにも、校歌が流れている場面では校名などを常時表示してほしい。また、副題に百景とあるが、番組は大山に焦点を当てて制作されており、タイトルとテーマにそごがあるように感じた。生放送の演出やゲストの起用もそれぞれ必要性が感じられず、むしろ番組の進行を悪くしていたように感じた。代わりに学校の統廃合によって地域の風景が変わっていくことに対する地域住民の思いなどを伝えることにより多くの時間を割いてほしかった。また、大山から離れた鳥取県東部でも大山という単語を歌詞に含む校歌があるようだったが、どのように表現されているのか詳しく知りたかった。番組の中で視聴者からのお便りを紹介する場面があつたが、紹介されたお便りの数が少ないうえ番組の趣旨と関わりの少ないものだったので残念だった。

(NHK側)

昨年、夕方のニュース情報番組「いろ★ドリ」の中で鳥取県の校歌を調査する企画があり、その際は鳥取県各地の風景を取り上げたが、今回は松江局と協力し島根県まで調査範囲を広げて取材したところ、県境付近にある大山に焦点を当てた。ゲストについての意見や、生放送とい

う手法については今後の参考としたい。

(NHK側)

少子化に伴う学校の統廃合も進む中、改めて故郷に思いを寄せる機会を提供できるよう、続編の制作も検討したい。

- 最近の「ラウンドちゅうごく」は地域色が薄く感じられ、全国放送番組を念頭において制作されているようで残念だ。

(NHK側)

中国地方の5県の話題に焦点を当てて制作している。社会問題や政治問題は全国に通じるテーマでもあるため地域色が薄く感じられるかもしれない。今後もきめ細かく地域の情報を伝えていきたい。

- 5月9日(日) NHKスペシャル「被曝(ばく)の森2021 変わりゆく大地」を見た。研究者による継続調査をよく取材していたが、森の再生を自然の回復力に頼るような番組終盤の論調は、研究者や地域住民の思いとそごがあるのではないかと感じた。
- 5月18日(火) クローズアップ現代+「動物園はコロナ禍に負けない!あの有名動物園も」を見た。新型コロナウイルス感染拡大により苦境が続く全国各地の動物園の取り組みを紹介していた。中にはクラウドファンディングにより、新たにキリンを受け入れたといった明るい話題もあり希望を持つことができた。また、旭山動物園の坂東元園長のインタビューからは動物の命を預かっているという覚悟が感じられ、共感を持って見ることができた。厳しい状況の中で希望を見いだそうと模索する公共施設や文化芸術を支える人々の姿を今後も継続して伝えてほしい。NHKプラスをはじめインターネットへの展開や、全国各地の放送局と連携した番組制作も評価したい。

(NHK側)

過去の「ラウンドちゅうごく」でも動物園の話題を取り上げたが、全国の動物園に通じる普遍的な問題を伝えるため、広島局のディレクタ

ーが中心となり、本部とも連携しながら、取材範囲を全国に広げて番組を制作した。NHKプラスやSNSへの発信も強化しているところだ。

- 土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」を見ている。好感度を上げたいという気持ちに翻弄される青年の姿を通して、事なかれ主義的だといわれる日本社会を風刺しているようで、秀逸な番組だと思う。
- 自然や文化を取り上げた番組が多いように感じるので、経済や人々の暮らしに関わる番組を増やしてほしい。
- テレビ離れが進む中、イベントなどを通してNHKの番組を身近に感じてもらえるよう検討してほしい。

NHK広島拠点放送局
番組審議会事務局

2021年4月NHK中国地方放送番組審議会

4月のNHK中国地方放送番組審議会は、15日（木）、広島拠点放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、5月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
副委員長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
委員	安彦恵里香	（Social Book Cafeハチドリ舎 店主）
	伊藤 康丈	（一般社団法人イワミノチカラ 代表理事）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	鷲見 寛幸	（大山町教育委員会 教育長）
	松浦奈津子	（株式会社Archis 代表取締役社長）
	松本 協一	（双湖事業化計画合同会社 代表社員）
	宮崎 智三	（中国新聞社 論説主幹）

（主な発言）

<放送番組一般について>

- 3月20日（土）市民球団誕生70年 広島カープの軌跡 プロジェクトX～挑戦者たち「史上最大の集金作戦 広島カープ～市民とナインの熱い日々～」（総合 前8:15～8:59 広島県域）、3月21日（日）市民球団誕生70年 広島カープの軌跡 NHKスペシャル「もう一度投げたかった 炎のストッパー 津田恒美の直球人生」（総合 前8:00～8:52 中国ブロック）を見た。昨年放送した被爆75年関連番組のアーカイブス編成の際には、番組の前後に専門家による解説やアナウンサーとの掛け合いがあつて興味深く見ることができたが、今回はアナウンサーによる簡単な説明だけにとどまり、少しもの足りなさを感じた。

（NHK側）

頂いた意見を参考に、今後の演出について検討していきたい。

- 「しまねっとNEWS 610」を見た。3月25日(木)の「しまね特集」で地方銀行の業務が激変している様子を詳しく取り上げており、金融業界を取り巻く環境の世界的規模の変化が地域にも大きな影響を及ぼしていることがよく分かった。4月2日(金)の「しまね神(しん)発見」という新コーナーでは、地域に伝わるヤマタノオロチ伝説についてアニメーションを用いて分かりやすく説明していた。神話になじみがない地元の視聴者もいると思うので、意義のある取り組みだと感じている。アナウンサーがタブレット操作で映像を出す演出では、途中音声トラブルもあったが、新しいツールを用いて伝えようとする姿勢には好感を持った。「Weeklyしまねっと」では、島根NEWSWEBの閲覧ランキングを伝えており、視聴者の興味の度合いを客観的に把握できて新鮮だった。このコーナーを番組終盤で伝えるのはもったいない気がした。新年度初回の放送からは、若手アナウンサーを中心に放送していく気概が感じられたので、インターネットやSNSなども用いて同世代の視聴者に見てもらえるよう努めてほしい。

(NHK側)

「しまね特集」は、3月16日(火)「クローズアップ現代+」で紹介できなかった内容を再編集して放送した。新年度から若手アナウンサーを中心に番組を進めており、学生や若い人たちに見てもらえるよう工夫を続けたい。

- 3月26日(金)「#カープどん底からの復活 ～市民球団70年 誕生の原点～」(総合 後10:00～10:45 中国ブロック)を見た。開幕戦当日夜の生放送であったため、その日の試合について出演者がそれぞれ振り返るところから始まったが、試合を見ていなかった視聴者にとっては唐突感が否めず、試合の概要を番組冒頭で簡単に説明するなどの配慮が欲しかった。カープ球団の草創期を漫画で解説する演出は分かりやすく、SNSで投稿された視聴者からの感想とともに番組を見られたのはよかったが、シーズン序盤の放送なので、希望が感じられるタイトルの方がよかったのではないかと。ルーレットで話す人を決めていたが、なくてもよい演出だと思った。

- 3月26日(金)さんいんスペシャル 小さな旅「湯のぬくもり いつもそばに～鳥取県三朝温泉～」(総合 後7:30～7:55 鳥取県域)を見た。人々へのインタビューや紹介された風景は、いずれも地域の雰囲気よさが伝わるもので、時間をかけて丁寧に取材されていることが伝わってきた。三朝温泉の名前の由来や、お湯の効能など新たな情報を得ることができた。三朝温泉の魅力を改めて知ることのできるよい番組だった。

- 4月2日(金)ラウンドちゅうごく「“すべては勝つために” ～広島カープ 森下暢仁投手～」を見た。森下投手に密着取材し、その活躍の原動力や精神的な強さの源泉について、緻密なデータ分析や関係者への取材を通じて詳細に伝えていたため、論理的で分かりやすい納得感のある番組だった。森下投手が努力を積み重ねている姿を同世代の若い人たちにもぜひ見てほしい。

(NHK側)

若い人をはじめ幅広い世代に見ていただくことができた。引き続き取材を続けたい。

- 4月3日(土)@okayama 「“きれいな海”から“豊かな海”へ～転換期迎えた瀬戸内海～」(総合 前10:55～11:20 中国ブロック)を見た。コンビニエンスストアで売られているおにぎりののりをきっかけに、近年続くのりの色落ちからその原因となる海の“貧栄養化”をはじめとする瀬戸内海的环境について専門家の解説も交えて伝えており、それを瀬戸内海の見える場所で収録していたのがよかった。瀬戸内海環境保全特別措置法の改正が2015年に行われ、そこから現在に至るまで6年間の空白を感じてしまったが、今後もこうしたテーマを息長く掘り下げて継続取材してほしい。

(NHK側)

質のよいのりが取れなくなってきたことに注目して取材を始めたため、ご指摘のような印象を与えてしまったかもしれない。地域の人々と瀬戸内海の関係について、継続して取材を行いたい。

- 4月8日(木)「お好みワイドひろしま」を見た。この日は参議院広島県選挙区再選挙の告示日で、今回の選挙の構図や焦点、論点の解説に加え、菅政権にとって初の国政選挙であり、他の補選とともに今後の政権の行方を占う重要な選挙であることなどがしっかりと説明されていた。今後予定されている主要な選挙についても概要が分かりやすく説明されておりとてもよかった。この選挙は、公職選挙法違反の罪で有罪が確定した河井案里元参議院議員の当選無効に伴って行われる選挙であって、本来必要のない再選挙である点や、広島県が全国の注目を集めてしまっていることを強調して伝えてほしかった。視聴者に投票に行くよう呼びかけを行ってもよいのではないかな。

(NHK側)

4月23日(金)「ラウンドちゅうごく」で今回の再選挙について詳しく取り上げるとともに、投開票日の4月25日(日)には開票速報を総合テレビとラジオ第1でお伝えする。有権者の判断に資する情報をインターネットも含めて伝えるとともに、公平・公正、正確・迅速な報道を心がけていく。

- 4月8日(木)「もぎたて！」を見た。新コーナーの「もぎりサーチ」で「池田動物園のジャイアントパンダを追え」というテーマのもと、当時の県民の熱狂ぶりやパンダの愛らしい様子など、過去のニュース映像を活用してわかりやすく紹介していた。視聴者の疑問について取材し解決していく姿勢はとてもよい取り組みだと思った。

(NHK側)

視聴者により興味を持っていただけるよう、工夫を重ねていきたい。

- 4月9日(金)ラウンドちゅうごく「バス新時代 始まった移動革命」(総合 後7:33～7:58 広島県・島根県域)を見た。人手不足に加えて新型コロナウイルス感染拡大の影響により公共交通機関が直面する厳しい現状や課題について番組冒頭で紹介しており、問題意識を持ちつつ番組を見ることができた。自動運転バスをはじめ将来の実用化に向けて進められている取り組みを紹介するのもよいが、地方において公共交通機関の維持が喫緊の課題であり、即効性のある解決策も提示した方がよいと感じた。ま

た中国地方だけでなく全国での取り組みについても、ぜひ取材して伝えてほしい。

- ラウンドちゅうごく「バス新時代 始まった移動革命」を見た。バスに限らず公共交通のあり方や方向性については、都市部においても今後直面する課題であり、非常に深く考えさせられる番組だった。採算性を無視して取り組みを進めることができないという重要な点も的確に指摘しており、見応えがあった。

(NHK側)

福井県での先進事例を短く紹介したが、今後もさまざまな取り組みについて取材を続けていく。

- 4月9日(金)@okayama 「石に恋して ～北木島からのおくりもの～」を見た。4月3日(土)@okayama 開局90年アンコール 小さな旅「石切り 心意気が響いて～岡山県笠岡市北木島～」(総合 前7:30～7:55 岡山県域)が放送されており、島の過去と現在を見比べることができてよかった。北木島といえば男性による砕石作業を思い浮かべがちだが、女性のアクセサリー作家が島の石を活用して作品を生み出していることを知り、とても新鮮に感じた。北木島の自然の美しさや島に関わる人々の絆を感じることでできるすばらしい番組だった。

(NHK側)

いろいろな視点から取材することで、地域の新しい魅力を伝えられると改めて感じている。

- 4月9日(金)さんいんスペシャル うまいッ! 「生でも安心! 脂が甘〜い! 養殖サバ〜鳥取・岩美町〜」(総合 後7:33～7:58 鳥取県域)を見た。加藤向陽アナウンサーの伝え方と表現が秀逸で、サバのおいしさがとてもよく伝わってきた。丁寧な取材や画像を用いた解説もあって、このサバを生でも安心して食べられる理由がよく理解ができた。しかしこのサバを普段見かけることはなく、探しても見つけれなかったもので、流通経路がどうなっているのか知りたかった。

- 4月9日(金)Yスペ!「魅せます!開局80年」(総合 後7:33~7:58 山口県域)を見た。制作陣の熱意が伝わってくる番組で、生放送というのも新鮮でよかった。出演していた3名の番組スタッフと大村和輝アナウンサーの掛け合いがおもしろく、変わったカメラアングルや手書きのパターンを用いた演出など随所に工夫がみられた。文化財復元の第一人者で日本画家の馬場良治さんが山口局開局80年を記念して描いた作品もすばらしかった。山口局のロビーで展示されている作品を実際に見に行きたいと感じた視聴者も多かったと思う。

(NHK側)

馬場さんには2020年12月8日(火)「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演いただいた縁で、開局80年を機に「虹ヶ浜に想う」という日本画を制作・寄贈していただいた。作品展示に加え、制作過程を8Kカメラで撮影したミニ番組を山口局のロビーで上映している。

- 3月1日(月)逆転人生「あの日“加害者”になった私 東電社員たちの10年」を見た。原発事故後に福島へ赴いて賠償や除染作業などに携わった3人の東京電力社員の苦悩や葛藤、地元の人々との交流を描いていたが、東京電力の加害性についても一言触れてほしかった。一方、東日本大震災関連の「ETV特集」や「NHKスペシャル」を見たが、どの番組も非常に丁寧に取材しており、これまで明らかにされていなかったことも深掘りするなど非常によい番組だった。これらは重いテーマで難しい取材を伴うと思うが、周囲に左右されず志を持ってこういった番組作りを続けてほしい。

- 3月22日(月)プロフェッショナル 仕事の流儀「庵野秀明スペシャル」(総合 後7:30~8:45)を見た。番組冒頭から庵野さんと取材チームの緊張感のある関係性に引き付けられ、おもしろく見ることができた。しかし取材力や構成にもの足りなさを感じた。

(NHK側)

ディレクターそれぞれの個性を生かしながら番組作りを進めていきたい。

- 「列島ニュース」を見ている。全都道府県に放送局をもつNHKのネットワークが生かされており、他の地域のニュースを知ることができてとてもよい。文化や催し物を取り上げたニュースが多いと感じており、例えば全国各地の選挙結果をもっと放送してほしい。

(NHK側)

「列島ニュース」は各放送局の正午のニュースの中から選んで放送している。選挙結果は各地の翌朝のニュースで取り上げているほか、NHKのホームページにも掲載している。

- 「聖火リレーデイリーハイライト」を毎晩楽しみに見ている。5分という短い放送時間ではあるが、聖火ランナーの背景も紹介されており、頑張っている人の姿を見て元気になれる。以前は東京オリンピック・パラリンピック関連の番組が盛んに放送されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大以降はスポーツ関係の話題は置き去りにされている印象がある。取材が難しいという事情もあると思うが、東京オリンピック・パラリンピックは開催される予定なので、有名な選手・競技だけでなく、さまざまな競技の紹介や地元選手の特集など、地域放送局の強みを生かした番組を制作して、アスリートをぜひ応援してほしい。

NHK広島拠点放送局
番組審議会事務局